

令和4年度 江戸川区立葛西第三中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	よく学び、よく考える自主性のある中学生（自発）	目指す学校像	1. 生徒が自ら考え、主体的に学び、確かな学力を身につけさせる学校 2. 生徒の自尊感情を育むとともに、何事にも立ち向かっていく強い意志を持たせる学校 3. 生徒一人一人に充実感・満足感を体感させ、何事にも率先して自主的・主体的に活動できる学校
	心身共に健康で礼儀正しい中学生（礼儀）	目指す生徒像	1. 自分で考え、主体的に学び、判断し、自ら率先して行動できる生徒 2. 心身共に健康で何事にも前向きに取り組み、輝いている生徒 3. 豊かな情操を持ち、表現力豊かで社会性のある生徒
	規律と責任を重んじ、よく働く中学生（責任）	目指す教師像	1. 共に力を出し合う教師(共育) 2. 共に汗を流す教師(協働) 3. 自らを高める教師(研鑽)
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>校内研修や教科部会を充実させ、指導内容や指導方法、評価の仕方等を共有し合い、授業力向上に努めた。教員一人一人が自己研鑽に努め、互いに切磋琢磨しつづ、課題の解決に取り組んだ。生徒の学力向上に向けて授業や学習・補習教室を充実させた。学校行事では生徒の主体性を尊重し、自己肯定感を育む教育活動を実践した。 部活動では顧問の粘り強い指導を通して、技能の向上だけでなく、個に応じた指導を行い、心身共に健全な生徒の育成に取り組んだ。 <課題>道徳授業や人権教育・特別支援教育の充実・ICT機器の効果的な活用・3観点の評価・評定の方法を中心に校内研修を行い、教育活動のさらなる充実と教職員の資質向上を図る。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	来年度に向けた改善策	
					取組	成果			
いいきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や指導の充実と授業力の向上、補習の充実 一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現 「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の結果から生徒の苦手分野を把握し、克服に向けて、授業・小テスト等の工夫、放課後補習教室の外部機関との連携、長期休業中の補習等による基礎学力の定着を図る。 ICTに関する校内研修を実施し、またICTアシスタントの訪問を有効活用し、ICTに関する基本的な技能の習得を図る。 「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの小テストや各種コンテストの実施により基礎学力の定着を図り、コンテスト合格率80%を目指し、より一層の学力向上に向けて支援する。 ICT機器や一人一台端末を活用した授業を定期的に実施し、その課題に関して随時、教科部会等、教員間で研修を行う。 年2回の研究授業・研修会を実施し、指導・評価方法を工夫・改善する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果をもとに「確かな学力向上推進プラン」の達成目標を見直し、指導の充実、授業方法の改善を図った。各教科において計画的小テストや単元テスト、コンテストを実施し、基礎・基本的な事項について学力が定着した。 ICT支援員を活用し、校内研修を行い、普段の授業で一人一台端末の活用方法の技能を高めた。 校内研修会を3分野で実施し、指導の方法、ICTの活用の研修を深め、教科部会で実践につなげた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」を全国や部の学力学習状況調査をもとに作成し、現状の学力を分析し、基礎・基本の徹底方法、思考・判断・表現力の向上を図る。 学習活動は基礎・基本の確実な定着や、学力の向上が図られているが、一人一台端末の活用方法や家庭学習に関してはまだまだ改善ができていない。 教科部会・校内研修をさらに充実させ、一人一台端末の効果的な活用を研究し、実践につなげていく。 補習教室の講師と連携して、放課後学習指導を充実させ、引き続き生徒の苦手分野を克服する取組を行う。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業、部活動等による補助運動の実施 休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の授業で補助運動を意図的・計画的に実施する。 部活動の活性化を図り、補助運動については、体育科と連携して行う。 常に体力測定できる環境を整え、生徒が主体的に体力向上に取り組める環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の授業の始めに補助運動を取り入れ、部活動においては種目に応じた体力づくりを行い、基礎体力の向上を図り、前年度より体力合計点が上がるようにする。 生徒それぞれが休み時間に運動する機会を増やしていく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の状況に応じて、活動方法や環境を工夫し、保健体育の授業では補助運動を計画的に実施した。運動能力に応じて目標設定の基準や内容を改善していく。 休み時間の健全な過ごし方を学活等で指導し、校庭での活動や、保健室での身体測定がしやすくなるよう、体力向上の意識を高め、安全に運動する環境を整えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を分析し、習熟度別に補助運動の内容を工夫し、生徒が主体的に活動に取り組めるよう、工夫する。 コロナ感染症や熱中症対策について、安心・安全面の配慮と新たな生活様式への対応について、実態に応じた方法の実施が必要とされる。 安全面の徹底を維持しながら、コロナ禍における新たな生活様式のきまりを状況に応じて設定し、学習・運動の方法で実践できるものを増やしていく。
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、調べ学習による問題解決的な学習の展開、自己の考えをまとめ表現するとの関連づけ、他教科との関連等) 学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書科の取組を中心に読書をおとして探究心を養い、各教科や総合的な学習の時間、学校行事等と関連させ、探究活動を推進する。 学校図書館を読書活動推進委員会や学校図書館巡回支援員と連携して整備し、授業・補習・調べ学習等で活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日10分間の朝読書で読書の習慣化を図る。またピリオバトルを全学年で実施し、年に1回発表を行い、生徒の年間の読書量(冊数)を増加させる。 学校図書館司書と連携を取り、月2回図書館の整備を行い、本の貸し出しができた環境を作る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝や総合学習の時間に「よむYOMUワークシート」を使って読書の習慣化や読書力を向上させた。またピリオバトルを国語科の取組と連携させ、資料の収集や記録方法、発表を工夫し、探求心を深めた。 月2回の図書支援員と定期的に連携する機会を設け、学校図書館の環境を改善し、3学期は委員会での貸し出しを実施し、また授業で調べ学習や探求学習を積極的にに行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動と連携して、昼休みの開放など、学校図書館を効果的に活用できるよう、環境を整える。また、より一層、読書科の取組を活性化させ、調べ学習や表現活動、探究活動を深めていく。 読書活動を活かして、文章力や、読み取る力など読解力を身に付け、その力が他の場面で発揮できるようにする。
外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業力の向上とALTの効果的な活用 「学校2020レガシー」による国際感覚の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTを有効に活用した授業を実施する。また小中学校と連携して、英語指導の方法やその内容について共有し、生徒が学習しやすい環境を整える。 海外姉妹校との連携を深め、レター交流などを実施して、豊かな国際感覚を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTを活用した授業ではアクティビティを毎回取り入れ、表現力の向上を図る。 海外姉妹校との交流を年に1回実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 英語科で効果的なALTの活用を各学年で工夫し、ALTの授業を通して生徒が英語で話す機会が増え、自信につながっている。 海外からの留学生との交流を実施し、様々な考え方に触れることで豊かな国際感覚を身に付けた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間同様のALTで、授業を楽しみに臨んでいる。 国際交流を行ったことで興味・関心が高まり、英語の教科をはじめとして、学習活動に意欲的に取り組んでいる。 	
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 共生社会の実現に向けた教育の推進 子ども・サードデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 エンカウンタールームの活用促進 副籍交流及び共同学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会の活性化を図ることなどに指導・支援の充実 特別支援教育コーディネーターや専門員を中心に、巡回指導教員及び巡回指導心理士との連携を強化する。 授業での提示の方法を工夫し、一人一台端末の効果的な活用を図る。 特別支援教室における環境整備と不登校生徒への支援 副籍交流及び共同学習の充実 学校便り、学年通信等の送付。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会を月1回以上開催し、巡回指導教員と情報共有を図る。巡回指導心理士からの助言を特別支援教育に生かす。 生徒理解や特別支援生徒への対応、学級経営等の研修を学期に1回実施。 巡回指導教員との月1回の使用状況の確認。 学期に1回学校便り、学年通信の送付。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会で定期的に情報交換を行い、心理士から有効な助言を受け、その時期の状況や実態に応じて、手立てを確認し、個別の指導を充実させた。 校内で長期の個人研修を実施し、特別支援教育の理解や指導力向上を目標に、具体的な実践例の考え、指導テーマを変え、実践した。 巡回指導教員、特別支援専門員と月1回、エンカウンタールーム、SC教室の活用方法を確認した。 副籍制度に基づく交流学校と連絡を取り、学校便り・学年通信を送付し、交流した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の特別支援教室の指導や、巡回指導教員との相談で他者とのコミュニケーション能力を身に付けることができた。 特別支援教育研修での様々な実践例の中から、継続して取り組める方法を選択し、学校または、小グループで指導力の向上を図る。 	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	子供たちの健全育成	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 SC・SSW(チルドレンサポートチーム)・巡回指導心理士や生活指導連絡協議会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学級運営やいじめ対策等の校内研修や、Hyper-QUの結果を活用して生徒の主体性を生かした学校行事や学級組織作りを実施する。 教育相談部会等により、課題や手立てを検討し、関係諸機関との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が意欲的に取り組めるように月1回以上、学年会議を行い、学校行事や学級運営の内容を検討する。 年に2回Hyper-QUを実施し、結果や傾向を活動や指導に活かしていく。 不登校や問題傾向の生徒には月1回、SSW(チルドレンサポートチーム)との連携を図り、長期化を防ぐ。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年会議を月1回以上行い、学校行事、学級経営の工夫・改善を随時実施。運営委員会から全体に共有し、組織的に課題解決を行った。 Hyper-QUを2回実施し、生徒の愛着や集団の傾向を分析し、充実した活動の実現を図った。 特別配慮が必要な生徒や不登校生徒に関してCSCや巡回指導教員、月1回SSWと連携したり、児童相談所等、外部機関とも相談し、情報を共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年会議を引き続き、定期的に開催し、学校行事・学級経営の方法を検討し、教育活動が円滑に行われるよう、工夫していく。 スクールソーシャルワーカー(SSW)の活用や外部機関との連携をより一層深く深めていく。
	学校関係者評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善 	<ul style="list-style-type: none"> 地域・保護者に対して教育活動に関する外部評価、生徒に対して各教科の授業評価を実施する。 学校評議員会、PTA運営委員会等を実施し、教職員と地域・家庭が教育活動について、意見・課題を共有し、連携する機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の中で、生徒・教職員・地域・保護者に対して学校評価を実施し、結果をもとに、教員が授業や行事等の教育活動について、検討・改善を行い、研修・会議等で周知する。 学校評議員会を年に2回、PTA運営委員会を年に3回実施し、教員と意見交換する機会をもつ。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒学校評価を2回実施し、実態をもとに授業改善を行った。学校行事に関しては教員の評価が振り返りを行い、来年度につなげていく。 学校評議員会やPTA運営委員会を開催し、教育活動が円滑に行われているか、または問題点を把握し、その評価を活かして改善を行った。PTAや地域活動の精選が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学期の定例の保護者会や宿泊行事の保護者会、PTA運営会等と教育活動や学校活動の内容が発信されている。 コロナ禍の生活様式もだいぶ変わってきているので、制限の基準を見直し、今後は学校行事等の活動も公開してもらい、様子を観察したい。
特色ある教育の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「学校における働き方改革プラン」 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校としての働き方改革の目標を設定し、スクールサポートスタッフや副校長補佐、部活動外部指導員等、学校経営支援を担う人材を積極的に活用し、業務の軽減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 印刷・配布作業、集計・採点業務等、依頼しやすい環境を整え、毎日業務を教員から学校経営支援を担う人材に毎日1回以上、依頼する機会を作る。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒学校経営支援を担う人材を活用することで、生徒対応や学習指導に時間を費やすことができた。 校内や職員室内のICT環境を整備したり、効果的な活用方法を身に付け、仕事の効率化と、勤務時間短縮を実現させていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動やICT機器やオンラインで実施され、効率化を図っている。 活動の簡略化や効率化を率先して行えるように、引き続き学校支援を担う人材の効果的な活用に関して、他の学校の良い実践方法などを取り入れ、働きやすい環境を作れるよう、工夫・改善していく。 夏季休業の延長に伴い、その期間の有効な活用と、授業時数の確保による、各活動の内容の見直しを継続して行っていく。 	